

令和5年度 第6回町民ワークショップ

テーマ「実施計画案の確認と、将来の運営体制のあり方や町民の関わり方について」

■日時・場所

令和6年2月19日（月） 18：30～21：00 本郷生涯学習センター 2階A研修室

■参加者

10名

■内容

実施計画案について、前回町民ワークショップにおいて出された意見等を踏まえ、素案からの変更点を中心に説明し意見交換を行った。整備イメージの再確認をするとともに、今後の検討課題等を整理し、計画内容について共通認識とすることができた。

また、先進的な管理運営の事例を参考に、「よく使われる、みんなの居場所になるには？」をテーマに、将来の運営体制のあり方や町民の関わり方についてグループディスカッションを行った。子どもの遊びを支える大人のサポート体制の必要性や人をひきつける魅力的な企画を生み出すために必要な体制、さらには運営主体や利用する団体等が整備検討の早い段階から跡地利活用に関わることの重要性など、跡地がみんなの居場所としてあり続けるためには、この場所に合った管理運営体制の構築が必要であることを共通認識として確認できた。

■スケジュール

時間	実施内容
18：30～	1. 開会、あいさつ
18：35～	2. 本日の進め方について
18：40～	3. 検討・意見交換 ○実施計画（案）について ○管理運営の在り方について
20：00～	（休憩）
20：10	○グループワーク ○結果共有
20：55	4. 今後の検討の進め方について
21：00	5. 閉会

■グループディスカッションにおける主な意見

「この公園がよく使われ、みんなの居場所になるためには、運営など、どんな工夫が必要か」

グループ A

①子どもの参加と大人のサポートについて

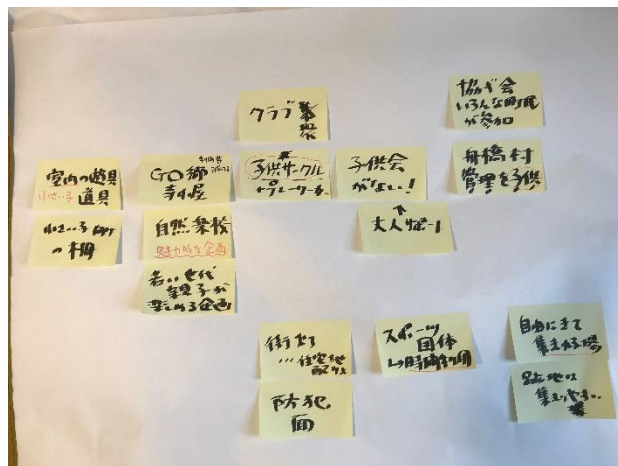
- ・子どもに参加してもらうのが良いのではないかと。富山県舟橋村では、子どもが管理運営に参加している。
- ・一方で、子どもの数が減り、子ども会がなく、学童の利用者も減っているなか、子どもが管理運営に参加するのは理想だが不安もあるので、大人のサポートが不可欠。
- ・学童に行けない子どもたちも参加できる子どもサークルがあると良いが、プレーワーカーのような方が必要。
- ・町内には子どもの遊びの活動をしている団体があるので（自然楽校、GO 郷寺子屋、クラブ衆など）、このような団体に協力してもらうのが良いのではないかと。

②子育て世代の参加とニーズ

- ・子ども向けだけではなく親子で楽しめる企画や若い世代や主婦の方も参加できる企画があると良い。
- ・子育て世代からは、冬や雨の日に室内で遊べる場所が求められており、特に小さい子どもが遊ぶ室内の遊具が必要。
- ・小さい子向けのエリアには柵が必要。大きい子と小さい子は遊び方が全然違うので、それぞれのエリアで遊ぶ方が安全。

③その他

- ・地域のスポーツ団体等に時間貸しするのも良い。
- ・街灯を設置するなど、防犯面に配慮してほしい。
- ・子供から高齢者まで、皆が自由に集まれる場所が必要。生涯学習センターと住み分けをしながら、そういう場所が作れたら良い。



グループB

①行きたくなる公園にする

- ・公園（施設）に行けば、「誰かがいる」状態にすることが大事。
→誰かがいると安心する。
- ・公園全体の雰囲気づくりが重要。

②地域住民に愛される公園にする

- ・他にはない本郷ならではの工夫/ウリ。
- ・運営等に地域の人に関わりがある。
- ・楽しい思い出をつくる（体験イベント等）。

③定期的な活動やイベントがある

- ・他の団体や活動との連携によるイベント一年間を通じて、一定頻度のイベントがある。
- ・郷 Go 寺子屋（教育委員会/放課後教室）の拠点を移す。

④子どもたちが行きたくなる公園にする

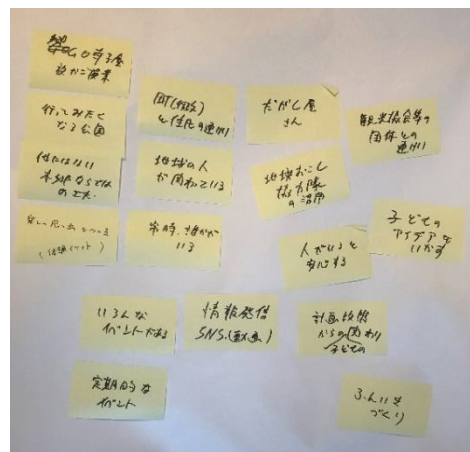
- ・計画・整備段階から、子どもに関わってもらう（自分が創った・関わったという愛着）。
- ・子どものアイデアを活かす。
- ・駄菓子屋さんなど子どもが行きたくなる施設がある。
（常時でなくても OK/イベントで綿菓子やポン菓子など）

⑤情報発信

- ・チラシ等の情報発信は効果的。11/19 イベント時は子どもがチラシを見て「行きたい」となった。
- ・中高生等若い世代には、SNS、TikTok の動画配信も有効。

⑥その他

- ・地域おこし協力隊は活用できないか？（公園運営、情報発信等）



グループC

①運営管理事業者の在り方（合意形成）…ずっといてもらうために

- ・運営管理の事業者にはなるべく早い段階から（全てが決まる前に）、町民参加の会議の場等に参加してもらい、考え方を合せた方が良い。
- ・事業者のニーズが建物のサイズ等にも関係してくる。
- ・事業者（候補）とのコミュニケーションを早めにした方が良い（サウンディング等を実施し、募集）。
- ・みんなの想いを形にする力にある人に関わってもらいたい。
- ・出来る限り事業者の決定を活かす運営の仕組みにした方が良い。

②知ってもらうことが重要（SNS 等の情報発信、ここでいつも何かやっていること）

- ・今年度も様々情報発信していたが、もっと発信して、もっと色んな方に検討プロセスに入ってもらった方が良い。多くの町民が公園づくりに参加してくれたら素晴らしい。
- ・色んな方に関わってもらい、この場所や活動の認知度を上げることが重要。
→跡地をアピールして知ってもらう：定期的にイベント開催、冬でも遊べる、子育て仲間に出会える、誰が来てもいい場所、安心・安全な所、涼しい・暖かい場所 等
- ・インスタとの連携。既に有名なコパコと連携し、進捗状況を発信してもらう。
- ・どこにあるのかも知ってもらう必要がある。

③顔の見える人達での運営管理

- ・顔が見える管理者が常駐していると良い。
- ・運営管理は、事業者によるものと、町民によるものがある（町民がどれだけ関わるか）。
- ・町民側の関わり方として、人格のない協議会のような形を作るより、個々がそれぞれの関心あるテーマについて、リーダーシップと責任を持って関われるような形が良い。
- ・そのためには、必要な管理の種類（樹木、イベント、子ども等・・・）や重視することを整理し、住民がやるべきこと、やりたいこと、できることを整理して、得意な方へ声掛けすると良い。
- ・イベントについては、既存の団体に積極的に参加してもらうことも非常に重要であり、今ある色々なイベントを仕掛けている方でも良いと思う。

④子どもの関わり、参加のプロデュース

- ・子供の関わりをより良くするための方法として、整備過程への参加がある。例えば、芝生を整備する際に、芝生代うち 500 円分を寄付からとすれば、ここの芝生は俺たちが張ったんだとなり、将来自分たちのものとして大切にするとし、参加してくれる場所になるのではないかな。それが管理運営体制にも良い影響を与える。
- ・利用ルールは子どもが決めるなど、プロセスに参加するのが良い。
- ・自分が関わってきた（自分の意見が反映されてる、労力を使う）から大切にする。
- ・ここに来ると仲間に会える、仲間が増える。

⑤その他

- ・ 跡地までの移動手段。
- ・ このような公園や広場の事例を見たり、話を聞いたりしたい。
- ・ 役場の人にももっと参加してほしい（教育委員会等）。

